

## 第 263 回 昭和の森 自然観察会

### ふしぎ発見！タネの旅

小川洋子（八千代市）

日 時：2013 年 11 月 10 日（日）13:00～15:00 天候：曇り

参加者：24 名（大人 9 名、子ども 15 名）指導員：14 名 計 38 名

担当指導員：小川洋子、晝間初枝

当日の天気予報は午後から雨、実施できるかどうか、また何人の参加があるか気がかりだったが、市原市の親子グループの参加があったので賑やかな観察会になった。

今回のテーマは「タネの旅」。出発前に、タネが何故、どのように旅をするのかを考えてからスタート。まず、東屋前にあるキリを観察。今年は 10 月に襲来した大きな台風の影響か、目的のタネははるか高いところに少しあるだけ。そこであらかじめ用意していた実を見もらつた。卵の先をとがらせたような実がパックリ割れて、そこに翼のついた小さなタネがびっしり詰まっているのに参加者たちは驚いたようだ。ルーペで見ている間も、手の隙間から飛んでいく様子に、まさにタネが風を利用して旅立つことを理解してもらえたと思う。次にイヌシデ、イロハモミジなど少しタイプの違う風散布のタネを観察した。折からの風を受け、くるくる回転しながら飛ぶタネに、子ども達は大喜びだった。動物に食べられて運ばれるタイプでは、鳥の目を引くためだろうか、実から布拉布拉下がる赤いコブシのタネを観察し、植物の工夫を感じてもらった。坂の途中ではコナラのドングリが根を地面に伸ばしているのがたくさん見つかった。根はドングリの先から出していることを確認、ドングリを割ったら、栄養たっぷりの子葉が見られた。春になれば、この子葉を栄養源にして、芽が出て本葉が開く。周囲にはいくつかコナラの幼木も見られた。坂を下り切ると、そこはひつつき虫がいっぱい。オオオナモミ、チヂミザサ、ミズヒキ、イノコズチ、ヌスピトハギなどいろいろなタイプのひつつき虫が見られた。子どもたちに人気があったのは、オオオナモミとミズヒキ、大人はルーペでいろいろなタネを見て、その造形に興味を持ち、新しい世界を見られた、との感想をおっしゃる方もいた。シャクナゲの道で赤い実が人目を引く、カラスウリだ。これも鳥の目を引き、食べてもらうための工夫だ。カラスウリの中には打出の小槌型のタネがいくつも入っている。子どもたちから見るとクロワッサン。ジェネレーションギャップを感じた瞬間だ。ヤマノイモ、オニドコロ、センニンソウなどのつる植物のタネや、イチョウ、カシワの実やドングリも見て、スタート地点に戻り、折り紙でマツとニワウルシのタネの模型を作り飛ばした。マツは、折り方が少し難しくうまく飛ばない人もいたが、ニワウルシはぐるぐるよく回り大成功。

「楽しかった」「タネのことがよくわかつた」などの感想が聞かれた。中には「初めてムカゴを食べておいしかった」という方もおられた。心配されたお天気は、時折雨がぱらついた程度だった。



キリのタネをルーペで観察